

平成31年度学校自己評価システムシート (県立北本高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 基礎基本を重視し、確かな学力の育成及び体力の向上を図る。 2 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 3 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 4 地域連携事業を推進し、生徒の社会性及びコミュニケーション力を育む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	19名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)	
年度目標					年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	学校全体の課題として、生徒の基礎学力向上に向けた取り組みを行っているが、学習習慣の定着に至っていない生徒もいる。生活習慣や学習習慣を確立させ、生徒の意欲的な学び、教員の授業改善への取り組みを引き続き継続していく。	教員の授業力向上及び生徒の学力向上	①未来を拓く「学び」プロジェクトや、校内研修等を通じて授業公開や研究協議を充実させる。ICT機器を活用した授業を展開する。 ②学校および授業アンケートを実施し、生徒の実態把握と教育活動の見直しを行う。 ③質問・自習コーナーの支援体制を整え、積極的利用を呼びかける。 ④登校指導、巡回指導を実施し、学習環境を整えて学習習慣を確立させる。	①全県対象の授業研究会及び年次研修の授業等を実施したか。 ②授業を理解できていると回答する生徒が昨年より増加しているか。 ③質問・自習コーナーが活用されているか。 ④昨年度と比較して、欠席や遅刻者の数が減少しているか。	①未来「学び」に係る公開授業は11月8日に実施、北本市教委や近隣中学校、評議員、保護者等の参加を得た。 ②授業が理解できているとする生徒の割合は全体の78%に増加した。 ③質問・自習コーナーの利用は昨年並みの40%であった。 ④年間の欠席者は昨年比で約20%減少、遅刻者数は約30%減少した。	A
2	生徒の多様な進路希望の実現に向け、客観的な指標に基づいた学力の把握を行い、個に応じた適切かつ段階的な指導をより充実させる必要がある。	進路資料室の活用と進路行事等の充実	①進路指導主事及びJSTを中心として、進学先や就職先の開拓を行う。また、JSTによる就職希望生徒への丁寧な支援を行う。 ②学年間の情報交換を密にして、進路説明会等の進路諸行事を段階的、計画的に実施する。 ③生徒の資格取得を奨励し、学習の支援を行い、取得を向上させる。 ④進路資料室の利用を促す。 ⑤学力の客観的な指標の導入に向け検討する。	①生徒それぞれの希望と適性に基づいた進路先を決定できたか。 ②各学年との情報交換を密にし、進路行事を段階的、計画的に実施できたか。 ③昨年度と比較し、検定受験者数や合格者数は増加したか。 ④進路活動で利用したか。 ⑤学力の客観的な指標の導入について検討はなされたか。	①本年度の進路決定数は、1月20日現在で大学(29名)、短大(10名)、専門学校(61名)、就職(51名)である。 ②情報共有の徹底と進路行事の円滑な実施により生徒の進路意識が向上した。 ③本年度の検定者数は68人、合格者は34人で合格率は昨年比で37%から50%へ上昇した。 ④進路資料室は主に3年生が学校調べや面接指導で利用した。 ⑤学力の客観的な指標について、1学年を中心に検討の時間を持った。	B
3	基本的生活習慣の確立に向け、遅刻指導をさらに充実させ、社会規範意識の向上に向けた指導を徹底する必要がある。また、部活動については、昨年度の加入率6割を超えるように働きかけを行う。	生徒指導体制の整備及び自主自立の精神と豊かな心の涵養	①遅刻指導、整容指導等の充実に向けて、段階的、継続的な指導を組織的に行う。 ②生徒会を中心に各委員会と連携し、行事の充実と改善を行う。また、定期的に部長会を開催し、部活動の実態把握を行うことで、部活動の活性化に繋げる。 ③教育相談委員会を中心として、定期的な巡回支援を実施する。また、各学年と連携して情報の共有を深め、個に応じた支援を充実させる。 ④530(ゴミゼロ)プロジェクトによる地域清掃活動の実施と日常的な清掃活動の充実を進める。 ⑤いじめ防止に向けた全校的な取り組みを強化する。	①遅刻指導、整容指導、交通安全指導、挨拶指導等を実施したか。 ②昨年度の課題が改善されて行事が行われたか。部活動の加入率は向上したか。 ③巡回支援や個に応じた支援は適切に実施されたか。 ④地域清掃活動への参加者は増加したか。 ⑤いじめ防止委員会が中心となり、職員や生徒に啓発的な活動ができたか。	①遅刻指導人数は第2段階が45人から13人へ、第3段階が9人から1人へ昨年比で減少した。 ②部活動の加入率は、昨年比で58.5%から63.5%に上昇した。校内行事は、運営も含め随時見直しをした。 ③巡回支援の先生からのアドバイスを踏まえ、生徒や保護者に丁寧に対応した。 ④530プロジェクトは本年2回実施した。 ⑤いじめ防止委員会は本年度、3回開催した。法律で定められたいじめの定義の理解を徹底した。	A
4	地域の探究学習を進めるためにも、地域との連携を深めていきたい。「生きる力を地域社会とともに育む学校」という理念のもと、効果的なPR活動を多方面から考えていく。	地域・保護者との連携及び開かれた学校づくりの推進	①KISEP(北本市小・中・高相互交流事業)を積極的に推進する。 ②校内、校外のボランティア活動を推進し、地域のイベントへの積極的な参加を促す。 ③広報誌の発行やHPの充実により、本校発の情報発信を積極的に行う。 ④PTA役員との連携を深め、学校行事などでの保護者との協力体制をさらに充実させるとともに、PTA行事への参加を促す。	①関係機関と連携し、計画に基づいて実施できたか。 ②ボランティアや地域のイベントへの参加数は増加したか。 ③HPのアクセス数は増加したか。 ④昨年度と比較し、PTA活動への参加者は増加したか。	①年度当初の事業計画に基づき、小高まなびあい、あいさつ運動、音楽交流会、陸上競技指導、出前授業、中学校バスケ・バレー大会等を実施した。 ②生徒会やJRC部、吹奏楽部、和太鼓同好会、有志等が参加して、北本市や市内自治会の行事に年間を通じて積極的に参加をした。 ③HPは行事ごとに即時発信を徹底し、常に最新の情報発信をした。 ④あいさつ運動や文化祭にPTAからの参加があった。学年別の進路講演会を実施、5校親善バレー大会では優勝を収めた。	A

学校関係者評価	
実施日 令和2年2月10日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
授業が理解できているとする生徒の割合が比較的高いこと、また、欠席者や遅刻者数が減少していることについては評価できる。未来「学び」の取組は、教員の授業改善にも直結することであり、より一層推進することを学校全体の取組としてほしい。今後は生徒が家庭学習を自ら行う「しかけ」を教員側に工夫してほしい。教員自身、常に更新をすることでレベルアップを図る必要がある。	
学力の客観的な指標は、生徒自身が学力を正確に把握し、自ら学力向上を目指す動機づけとして必要不可欠である。全国のどの位置に自分がいるのかわかるような指標を導入し、学力向上に役立ててほしい。同時に、各種検定の受験者数を増加させ、検定取得率を高めることは基礎学力の底上げにも繋がる。次年度も検定取得に向けた働きかけをしっかりと継続してほしい。進路指導については、JSTによる細かく丁寧な指導がさらに進路指導全体の質を高めており評価できる。	
部活動の加入率が向上しており、学校側の努力の跡が伺えて非常に評価できる。部活動加入率はできれば100%加入を目指してほしい。今年度から同好会となった和太鼓同好会は、引き続き地域の催し物など外にも活動の場を増やし、活躍の場を積極的に広げてほしい。遅刻者の段階指導が減少していることは評価できる。ぜひ、今後も継続してほしい。また、継続指導の観点から、中学校側の情報を適切かつ速やかに高校側に伝える必要性を感じる。高校側の丁寧な指導を望むとともに、中学校側にも同様の配慮を求めたい。	
KISEPに基づいた地域との活動はぜひ、今後も継続してほしい。また、校長杯を冠したバスケットボール大会やバレーボール大会など、結果や内容などについても広報誌などに載せて、活動の様子を地域の人々の目にも広く触れるようにしてほしい。教員は、働き方改革で業務の見直しを行うことが求められていると同時に、地域との連携という重要な役割も期待されている。限られた人的資源と時間の中で、双方がプラスになる取り組みをぜひ今後とも工夫、改善しながら推進してほしい。また、保護者の役割として、家庭でどう指導しているのかを、保護者同士で共有することも大切である。PTAにはその橋渡しとしての役割を期待する。	

達成度

次年度への課題と改善策

適切・的確な教科指導が生徒の基礎学力向上に繋がる。次年度も引き続き授業改善に向けた取り組みを推進する。また、欠席や遅刻者数は昨年度に比べて減少しているものの、引き続き手厚い指導を継続する必要があることには変わりはない。安定した生活習慣の確立が学力向上の基盤であることを生徒に認識させる。

入試改革に伴う共通テスト等の動向に確実に対応しなければならない。また、次年度は東京でオリンピックが開催される影響で、進学関係の説明会やオープンキャンパスの日程が大きく変更される。そのため素早く最新の情報を該当学年に提供し、段階的な指導を的確に行う必要がある。次年度も引き続き、各学年との情報共有を徹底し、進路実現に向けた指導を充実させる。

生徒の生活全般にわたって今後とも丁寧な指導を継続し、遅刻指導、整容指導の対象者を減少させていく必要がある。巡回支援については、次年度はなるべく早い時期で実施を開始し、具体的な支援に繋げたい。また、特別支援的な知識と手法を全職員に周知徹底したい。

本校では従来、地域に係る行事等については新規のものも含め、基本的には受け入れる方向で対応してきた。しかし、年々、関わる行事の種類と数が増加し、限られた人数の校内体制では維持・推進することが困難な状況になっている。したがって、次年度に向け、今後、校内での地域行事参加への精選、調整等を行い、地域各担当者との内容の見直しを具体的にやっていく必要がある。PTA行事については、教員の積極的な参加を促すとともに、行事の精選や運営方法の見直しを提案していく。